

目次

はじめに		2
1. 「学長挨拶」	梅田 博之	4
2. 「寄贈者挨拶」	速水 融	6
3. 「古文書からデジタルデータベースまで」	高橋 美由紀	11
4. 「宗門改帳から読む近世都市京都のライフコース」	浜野 潔	22
5. 「運命の再構築から学ぶ庶民のジェンダーとライフコース」	黒須 里美	32
6. 質疑応答		48
7. 公開シンポジウムプログラム		53
8. 展示風景		54



はじめに

麗澤大学・経済社会総合研究センターにおける、人口・家族史研究プロジェクト *Population and Family History Project* は、麗澤大学名誉教授・速水融先生が寄贈された、宗門改帳と明治・大正期府県統計書を中心としたデータを整理し、これをベースとした人口、家族、社会の長期的研究の継続と発展をめざしています。

この研究は、速水先生が1960年代初めにヨーロッパから「歴史人口学」の研究方法を導入、慶應義塾大学を拠点に資料収集と研究を開始されたことに端を発します。1995年、国際日本文化研究センターにおいて「ユーラシア・プロジェクト」(『ユーラシア社会の人口・家族構造比較史研究』文部省科学研究費補助金創成的基礎研究)がスタート、1995年に麗澤大学東京研究センター(新宿アイランドタワー内)に拠点を移し、継続してきました。

本プロジェクトは、これらの流れを受け継ぐ形で、麗澤大学・経済社会総合研究センターのプロジェクトとして柏キャンパスを拠点にスタートしました。このプロジェクトでは、長年収集されてきたデータの整理及び、これらを利用した研究の継続と発展をめざします。人口減少期に入り、決定的な転換点を迎えている現在の日本について、長期的視点にたって人口・家族・社会を考察することにより、その普遍性や特異性に新しい光を当てていきたいと思っています。

本報告書は2006年12月にプロジェクトの立ち上げを記念し、歴史人口学資料がどのように活用されているのか、これまでの軌跡と最新の成果をご紹介するという目的で行われた、シンポジウムと展示の記録です。シンポジウムには全国30近い大学研究機関の研究者、出版社、麗澤オープンカレッジ受講生、大学院生、一般の方々を含む100名を超える参加をいただき大盛況でした。本アーカイブ及び麗澤を拠点とする研究への関心の高さと、研究発展の可能性が示されたといえます。梅田博之学長挨拶における、歴史人口学・家族史アーカイブの立ち上げ宣言とともに、内外の認知を受け、いよいよ正式に、本プロジェクトが第一歩を歩みだしたところです。現在も、図書館4階プロジェクト室、3階資料室にて、史料の整理・入力作業が続いています。今後、麗澤大学図書館の協力を得て、利用規定などの整備を進めていく予定です。

現在、世界では、歴史人口学資料のデータベース化とそれを中心とした研究に、莫大な資金が投入され、巨大プロジェクトとして立ち上がり、さまざまな成果をあげ始めています。本年より、共同研究メンバーである、スウェーデンチームは、Swedish Research Council による「最先端的研究」グループとして長期の助成金(10年間で約12億円)を得て、一研究グループから、歴史人口学研究センターへとかわりつつあります。また今後共同研究を進めていく計画のある韓国では、やはり長期間にわたる助成金(10年間で約35億円)

を得、ソウルの成均館大学において、李朝時代「戸籍大帳」のデジタル化と、整理作業が進んでいます。世界でも稀有の人類の「世界遺産」である日本の宗門改帳が、麗澤大学においてデジタル化され、世界各地における同様のアーカイブとの間にネットワークを構築するならば、詳細で確実性の高い民衆の日常生活の分析に基づく、新しい歴史学・社会科学の創造が展望されるでしょう。

麗澤大学 経済社会総合研究センター

人口・家族史研究プロジェクト 代表 黒須 里美

プロジェクト・メンバー	黒須 里美	(麗澤大学外国語学部・教授)
	櫻井 良樹	(麗澤大学外国語学部・教授)
	高橋 美由紀	(麗澤大学国際経済学部・非常勤講師)
	速水 融	(麗澤大学名誉教授)
	鬼頭 宏	(上智大学経済学部・教授)
	斎藤 修	(一橋大学経済研究所・教授)
	津谷 典子	(慶應義塾大学経済学部・教授)
	浜野 潔	(関西大学経済学部・教授)
	岡田 あおい	(帝京大学文学部・助教授)

<謝辞> 本プロジェクトは麗澤大学経済社会総合研究センターの「歴史人口学・家族史アーカイブ：人口・家族の長期的研究」(基礎的研究B)として平成18年度にスタートしました。プロジェクトの発足と今回のシンポジウム・展示の開催にあたっては、学長はじめ、小野宏哉副学長、成相修・現センター長、佐藤政則・前センター長、田中駿平常務理事、今村稔学務部長、そして麗澤大学経済社会総合研究センターのみなさまの深いご理解と多大なるご支援をいただきました。

また、現在の研究・作業は、科学研究費補助金・基盤研究(A)「長期的視点による人口変動とその構造的要因(代表・慶應義塾大学 津谷典子)」、基盤研究(B)「近世日本の歴史人口学データベースを利用した比較地域分析 (代表・関西大学 浜野潔)」のサポートで進められています。史料の搬入、整理にあたっては、麗澤大学図書館の前田昌義さんをはじめみなさん、大学職員のみなさん、プラザ事務課長の鷺津泰邦さん、研究支援担当の鈴木敦子さん、今村直美さん、宇野澤正子さん、持田敏子さん、浅川正堂さん、水口昌美さんの温かいご協力をいただきました。ここにご報告とともに感謝を申し上げます。

人口・家族史研究プロジェクト 代表 黒須 里美